

メディアとしての冠婚葬祭作法書の作られ方 ―長野県の事例

大場 あや

はじめに

本稿は、「冠婚葬祭とメディア」というテーマのもと、各地域における婚礼・葬儀の慣習や作法がいかに伝えられているのか、その際メディアはどのような役割を果たしているのか、現代の冠婚葬祭の作法書を例に検討するものである。とくに本研究が注目するのは、都道府県別に刊行されている作法書であるが、こうした規範的な言説を伴う出版物が婚礼・葬儀の慣習に与える影響についても考察してみたい。

「情報化」という観点から冠婚葬祭の変遷にアプローチした第3期において、筆者は、山田慎也による近代以降の作法書の分析〔山田 2017〕を踏まえ、①都道府県別作法書の全国的な刊行状況を把握し、②「真宗地帯」と言われる3つの地域の作法書を対象にそれぞれ地域性がいかに反映されているかを検討した〔大場 2024b〕。

都道府県別の冠婚葬祭作法書は、主に1990年代から2000年代にかけて全国的に刊行が相次ぎ、地方の新聞社ないし放送局による発行が最多であった。2000年代に入り、新聞社・放送局以外の地元の出版社等による出版が見られるようになり、なかには複数県をまたいで編集・発行を担当しているものも確認された。

こうした作法書が1990年代以降に盛んに刊行された背景として、1つには、産業化や核家族化、人口の流動化、社交範囲の拡大などが進み、地域共同体や家族共同体の継承母体としての役割が希薄化していく中で、葬儀を含む冠婚葬祭をどのように準備し、振舞えばよいか、前提知識を共有しない世代が増加したことが考えられる。学校や職場など血縁・地縁以外の関係も広く構築されるようになると、婚礼・葬儀に参列する際の「恥をかかないためのマナー」が求められたのである。

各都道府県に密着した内容であり、さらには地元の新聞社や放送局というマスメディアが発行する作法書は、地域の人々にとって手に取りやすく、信頼でき、当時は少なくないニーズがあったと思われる。しかし近年は、インターネットおよびスマートフォンの普及により比較的簡単に様々な情報にアクセスできるようになった。そのためか、地域性や真宗的特徴を解説するタイプの作法書は（少なくとも筆者の扱った事例では）減少傾向にあった。より汎用性の高い「どこに行っても通用するマナー」が求められていると言えよう。また、近年の作法書では、終活や死亡後の手続等に関して紙幅が割かれるようになっていることも特徴的であった。

第4期では、都道府県別の作法書の発行者および編集を行う側に注目し、誰が、どのように作法書を作っているのか、作り手の立場に焦点をあてる。近年も増版や新創刊の見られる新潟県および長野県の作法書を事例に、メディアとしての冠婚葬祭作法書の「作られ方」と

その役割について考えてみたい。

1. 対象と方法

(1) 対象

前述した[大場 2024b]では、データベース上で検索した結果、管見の限り、これまでに作法書の刊行がなかった6都県を除く41道府県で169冊の作法書およびそれに準ずる書籍が確認された¹。なかでも、本稿で注目する新潟県と長野県は、それぞれ11冊、13冊と刊行数が多く、近年まで増版および新創刊の続く事例である²。

新潟県における冠婚葬祭作法書は、初期には浄土真宗の仏事に特化した新潟仏教文化研究会編『真宗門徒 新潟の仏事』(新潟の仏事刊行会、1983年)とその改訂2版(考古堂書店、1987年)、新装版(考古堂書店、2005年)、増補新装版(考古堂書店、2011年)がそれぞれ刊行されている。また、1990年代に入ると、新潟日報事業社出版印刷部『新潟の冠婚葬祭』(新潟日報事業社出版印刷部、1995年)に続き、『新潟県の葬儀と法要 保存版』(新潟日報事業社、2001年)という葬儀・法要に特化した作法書が刊行される。その後、新装版(新潟日報事業社、2006年)、改訂版(新潟日報事業社、2010年)、新版(新潟日報事業社、2017年)、そして、『よく分かる新潟県の葬儀と法要』(新潟日報メディアネット、2022年)が発表されており、版を重ねている。この他、『新潟のお葬式とその後 一番よくわかる! (月刊新潟こまち長岡版 3月号増刊)』(ニューズ・ライン、2018年)もある。

長野県においても、初期にはやはり仏教関係の信州仏教研究会編『信州の仏事』(銀河書房、1985年)が刊行されている。1990年代に入ると、信濃毎日新聞社より『信州の冠婚葬祭 ふれあいの道しるべ』(信濃毎日新聞社、1992年・1994年・1997年)、『信州の冠婚葬祭』(2000年)、『信州葬儀の知識』(2002年)、『信州の冠婚葬祭 信州のしきたり・習慣の常識ガイド』(2006年)という葬儀・法要に特化した作法書6冊が相次いで刊行されている。その後、2010年代以降は、まちなみカントリープレス編『信州の葬祭(〔別冊 KURARA〕)』(2010年)、『葬祭流儀 長野 VOL.1 ハッピーな人生の終焉を迎えるためのエンディングマガジン』(日本メモリアル通信、2013年)、『葬祭流儀 長野 VOL.2 良き人生のための終活マガジン』(日本メモリアル通信、2015年)、『長野の葬儀 Vol.1 40代からの「終活」きっかけガイド 元気なうちに親子で決めておく相続・葬儀いま事情』(長野こまち、2016年)、『長野の葬儀 Vol.2 二世代で考える「終活」きっかけガイド』(長野こまち、2018年)、『長野の葬儀 Vol.3 しあわせ「終活」ガイド』(長野こまち、2020年)と複数媒体による新

¹ ただし、特定の検索条件においてヒットしたものをカウントしているため、これより多く刊行されていることが推察される。

² 長野県の作法書一覧[大場 2024b: 表1]に、『長野の葬儀 Vol.2 二世代で考える「終活」きっかけガイド』(長野こまち、2018年)が抜けていたため本稿にて追加し、計13冊とする。なお、ここでは取り上げないが、愛媛県の作法書も11冊と多い。

創刊・増刊が続く。

上記の2県は、①刊行数が多く、②「冠婚葬祭」ではなく葬儀・法要関係に絞られており、③新聞社以外の出版社による刊行も見られる点が注目される。

③について、『新潟のお葬式とその後 一番よくわかる！』（月刊新潟こまち長岡版3月号増刊）』（ニュース・ライン、2018年）および『長野の葬儀 Vol.1～3』（長野こまち、2016年・2018年・2020年）の編集・発行を手がけた株式会社ニュース・ライン（新潟県新潟市、1998年設立）、株式会社長野こまち（長野県長野市、1999年設立）は、同社Webサイトによるとフランチャイズ関係にある³。両社とも、地元密着型の情報を中心とした雑誌（月刊誌『新潟 Komachi』『長野 Komachi』など）、単行本、Webサイトなどメディア媒体の企画・編集・制作・出版、イベント運営などを行っている。長野こまちに関しては、「長野の葬儀 Web」というポータルサイトも運営している（3. にて後述）。

また、『葬祭流儀 長野 VOL.1～2』（日本メモリアル通信、2013年・2015年）の編集・発行を行った株式会社日本メモリアル通信は、東京都港区に本社、長野県長野市に長野編集室を持ち、「日本初の終活マガジン『葬祭流儀』」を発行し、「終活ポータルサイト『終活 Cafe』」を運営していた（2017年に破産手続きを行っており、Webサイトは現在閲覧不可である）。『葬祭流儀』について、当時のプレスリリースでは以下のように紹介されている⁴。

葬祭・終活専門情報誌「葬祭流儀」について

2011年8月に創刊された「葬祭流儀」は“地域発信型”の葬祭・終活専門情報誌としてこれまでに、東京・神奈川・埼玉・千葉といった1都3県の首都圏エリアにはじまり、愛知・大阪・群馬・長野・岐阜と、各都道府県別にエリアを拡大しながら発行を重ねてまいりました。葬儀やお墓、供養、相続などのいわゆる“終活”という分野は非常に地域性が強く、各地域毎の情報発信にこだわり編集しております。

「葬祭流儀」公式サイト

<http://sosairyugi.jp>

葬儀や墓を含めた「終活」に力点が置かれていること、また複数県にまたがって編集・発行が担当されていることが分かる。

³ 株式会社ニュース・ライン「会社概要 | Komachi Web」<https://www.week.co.jp/company/>（2025年3月31日最終閲覧）。株式会社長野こまち「会社概要」https://www.web-komachi.com/?page_id=424（2025年3月31日最終閲覧）。ニュース・ライン社の上記サイトによれば、「株式会社愛媛こまち」もフランチャイズ関係にある。

⁴ 「終活ポータルサイト「終活 Cafe」が“残しておける”供花サービス 「メモリアルフラワーファクトリー」を11月8日より開始 | 株式会社日本メモリアル通信」<https://www.atpress.ne.jp/news/53385>（2025年3月31日最終閲覧）。

（２）方法

以上のような特長をもつ両県の冠婚葬祭作法書だが、最も近年まで（2022 年）刊行が続いている株式会社新潟日報メディアネット（新潟県新潟市、1965 年設立）に取材を申し込み、『新潟県の葬儀と法要』シリーズがどのように制作・編集されているのか伺った⁵。

株式会社新潟日報メディアネットは、1965 年、新潟日報販売株式会社として設立され、2022 年に株式会社新潟日報事業社と合併し、現在の社名に変更された。

出版部より得た回答によれば、①協賛社を募り、協賛社の協力のもと記載内容の過不足や誤りがないかのチェックが行われ、編集作業が進められている。②取材・執筆、制作などは外注し、増版のたびに同社の編集担当者は変化する。③よって、同社の主な役割は「発行までの進行管理」「監修に近い立場」であるとのことであった。

そこで今年度は、長野県において最も近年まで作法書の刊行が続いている株式会社長野こまちを対象を絞り、ムックシリーズ『長野の葬儀』の内容と特徴を掴んだ上で、制作・編集について作り手側の視点にアプローチすることとする。

⁵ 『新潟県の葬儀と法要』シリーズの大まかな内容と特徴については、[大場 2024b：42-45] を参照されたい。

2. ムックシリーズ『長野の葬儀』

長野県における冠婚葬祭に関する作法書は、前述のとおり、信州仏教研究会によるもの（1985年）、信濃毎日新聞社によるもの（1992年・1994年・1997年・2000年・2002年・2006年）がそれぞれ出版されてきたが、本稿では、最も近年まで刊行の続いている株式会社長野こまちによる『長野の葬儀 Vol.1～3』（2016年・2018年・2020年）のうち、入手することのできた Vol.1 および Vol.3 を取り上げる。



ムックシリーズ『長野の葬儀 Vol.1～3』

<https://www.fujisan.co.jp/product/1281697394/b/list/>（2025年3月31日閲覧）

(1)『長野の葬儀 Vol.1 40代からの「終活」きっかけガイド 元気うちに親子で決めておく相続・葬儀いま事情』(2016年)

目次

○巻頭特集 元気うちに親子で決めておく 相続・葬儀 いま事情

■いまどきの終活セミナー (P15)

■お金のこと (P18)

専門家インタビュー／01 相続の基本と相続人／02 遺言／03 相続財産の調査／04 遺産の分割協議／05 相続手続き／06 相続税／07 その他法的手続き

■お墓のこと (P42)

01 お墓の基礎知識／02 墓地・霊園の基礎知識／いまどきの墓地霊園／03 仏壇の基礎知識

■お葬式のこと (P54)

01 お葬式の基礎知識／02 お葬式にかかるお金／いまどきの葬儀会場・通夜専用施設／いまどきの葬儀会場・家族葬施設

■ペットの弔い方 (P63)

○弔事の基礎知識 How to

■葬儀の手引き 喪主・遺族の心得編 (P65)

仏式弔事の流れ／01 危篤臨終を告げられたら／02 葬儀社への連絡と法的手続き／03 喪主の決定と世話役の依頼／04 遺体の安置から納棺まで／05 通夜の準備／06 通夜／07 葬儀・告別式／08 出棺／09 火葬から精進落としまで／10 葬儀後から納骨・埋葬まで／11 法要／12 神式の弔事／13 カトリックの弔事／14 プロテスタントの弔事

■恥をかかないための常識・作法 弔問・会葬マナー編 (P105)

01 不幸の知らせ／02 供物・供花・弔電／03 世話役・弔事を頼まれたら／04 通夜の弔問マナー／05 焼香のマナー／06 葬儀・告別式のマナー／07 法要の出席／08 神式の葬儀／09 キリスト教の葬儀

○長野県内エリア別

■葬儀場カタログ (P127)

■葬儀関連施設カタログ (P137)

法要会場／墓石・石材店／仏壇・仏具店／墓地・霊園／その他

特別付録 親が子に未来を託すエンディングノート (P145)

『長野の葬儀 Vol.1』は、大きく3つのパートに分かれている。まず、相続や葬儀・墓に関する終活を取り上げた「巻頭特集 元気なうちに親子で決めておく 相続・葬儀 いま事情」(50 ページ分) が組まれ、次に、喪主や遺族となったときの準備や心得、会葬する際のマナーに関する「弔事の基礎知識 How to」(62 ページ分) があり、最後に「長野県内エリア別 葬儀場・葬儀関連施設カタログ」(17 ページ分) がまとめられている。巻末には、「特別付録 親が子に未来を託すエンディングノート」(13 ページ分) もついている。

[大場 2024b : 42-45] で取り上げた新潟県の事例と同じく、「終活」に関する巻頭特集が組まれ、その比重が大きくなっていることが誌面の構成からも明らかである。表紙にも、「元気なうちに親子で決めておく」「争続回避! もめないための相続基礎知識」などと記されている。目次には、「60 代・団塊の世代が「終活世代」に突入し、(中略) 団塊ジュニアの 40 代を巻き込んで、元気なうちに「相続」を話し合う時代が来ました」[長野こまち 2016 : 15] とあり、終活をする本人だけではなく、その子どもも対象としていることがうかがえる。ここでは終活は、「自分らしい最期」のための準備というよりは、家族・親族間での争いごとや子どもに面倒をかけることを避けるために必要なこととして捉えられている。つまり、この本をきっかけに、親子で早めに相続について話し合うことを推奨する内容と言える。これは、お墓の継承問題やいわゆる無縁社会に関する議論で頻繁に語られる「子どもに迷惑をかけたくない」という団塊世代の心情ともマッチするものである [大場 2024a : 84]。

次の「弔事の基礎知識 How to」の「葬儀の手引き 喪主・遺族の心得編」では、実際に喪主・遺族になった際、「いざというとき、慌てないために」具体的な法的手続きや準備の内容、世話役の依頼の仕方の他、危篤・臨終～葬儀～納骨・埋葬～法要に至るまでの一連の流れが宗旨ごとにまとめられている。続く「恥をかかないための常識・作法 弔問・会葬マナー編」では、訃報に接した際にすべきことや弔問・会葬する際のマナーが宗旨別に記されている。特徴としては、上記の終活特集に対し、地域性に言及された項目が散見されることが挙げられる。例えば、出棺の際の「釘打ちの儀」の有無や、お斎の料理の内容、生活改善の香典に関しては、中信・東信地方、長野・松本地域など具体的な地域名とともに簡単に説明が付されている [長野こまち 2016 : 86、89、114]。仏教の宗派による違いについては、浄土真宗に関してのみ、戒名、不祝儀袋の表書き、卒塔婆供養の違いがごく簡単に触れられていた [長野こまち 2016 : 86、114、120]。

最後に「長野県内エリア別 葬儀場・葬儀関連施設カタログ」がまとめられ、葬儀場 12 社、葬儀関連施設 6 社が紹介されている。

この他、「覚えておきたい用語集」というページが、「相続編」「葬儀編①～③」の計 4 回挿入され、10～15 用語ずつ略説されている [長野こまち 2016 : 41、64、104、126]。

奥付には、ディレクターや編集者、カメラマンや専門スタッフのクレジットが計 46 名記載されている。また、巻頭特集は、青木法律事務所(長野市)・小池管理会計税務事務所(上田市)の協力、弔事の基礎知識は、ブライイト信州株式会社・株式会社アステック信州の協力のもと執筆されていることが分かる [長野こまち 2016 : 15、65、105]。

(2)『長野の葬儀 Vol.3 しあわせ「終活」ガイド』(2020 年)

目次

第1部 終活

○終活 相続のこと (P13)

■40年ぶりの民放(ママ)改正で相続ルールが変わった!

マンガ 自分で遺言書を作ってみよう! / 相続ルールの変更点 注目ポイント7

■専門家からのアドバイス

相続のこと、まずは誰に何を相談すればいい? / マンガ 他人事ではない! 『相続』が『争族』に! / 親子でスマートに終活スタート「NGワードに気をつけよう」

■相続の基本

相続の基本と相続人 / 遺言 / 相続財産の調査 / 遺産の分割協議 / 相続手続き / 相続税 / 各種手続き

column

急増! 深刻化する 空き家問題 / 掃除から鑑定まで 遺品整理

○終活 お葬式のこと (P51)

お葬式の基礎知識 / お葬式にかかるお金

■新設の家族葬ホールやオンライン葬儀

いまどきの葬儀会場

○終活 お墓・仏壇のこと (P61)

墓地・霊園の基礎知識 / ペットの弔い方 / お墓の基礎知識

■県内各地に樹木葬霊園

いまどきの墓地・霊園 / 仏壇の基礎知識 /

column

残したい日本の文化 盆提灯 / 最高の仏壇が信州にはある! 飯山仏壇

○長野県内 葬儀場・葬儀関連施設カタログ (P81)

葬儀場 / 墓地・霊園 / 墓石・石材店 / その他

○ブラックフォーマルの基本 失敗しない! ブラックフォーマル選び (P96)

基本ルール / 女性 / アクセサリー / 男性

第2部 弔事の基礎知識 How to

○葬儀の手引き 喪主・遺族の心得編 (P103)

仏式弔事の流れ / 危篤臨終を告げられたら / 葬儀社への連絡と法的手続き / 喪主

の決定と世話役の依頼／遺体の安置から納棺まで／通夜の準備／通夜／葬儀・告別式／出棺／火葬から精進落としまで／葬儀後から納骨・埋葬まで／法要／神式の弔事／カトリックの弔事／プロテスタントの弔事／仏式弔事の流れ（補足編）

○恥をかかないための常識・作法 弔問・会葬マナー編 （P141）

不幸の知らせを受けたら／供物・供花・弔電／世話役・弔辞を頼まれたら／通夜の弔問マナー／焼香のマナー／葬儀・告別式のマナー／法要の出席／神式の葬儀／キリスト教の葬儀

column

覚えておきたい用語集

巻末 未来を託す エンディングノート

『長野の葬儀 Vol.3』は、基本的には Vol.1 の内容が引き継がれ、「終活」と「弔事の基礎知識 How to」の2部構成となっている。基本路線は変わらないが、40年ぶりに相続に関する民法が改正されるタイミングということもあり、具体的な変更点や手続きの仕方、注意点などが分かりやすくマンガで描かれている点が Vol.1 との大きな違いである。その他、コラムとして、空き家問題や遺品整理、盆提灯の慣習、地元の飯山仏壇が紹介されている。

「長野県内 葬儀場・葬儀関連施設カタログ」に計16社の紹介の他、「いまどきの葬儀会場」として5社、「いまどきの墓地霊園」として3社が特集されている。Vol.1 では、それぞれ18社、2社、1社だったので、紹介・特集される会社が増えている。なかでも、コロナ禍という時勢を反映して、オンライン葬儀に対応した葬儀社が取り上げられている点や、近年メディアでもよく報じられる空き家問題や遺品整理について触れられている点は Vol.3 の特徴である [長野こまち 2020：47-49、59]。

また、「弔事の基礎知識 How to」の内容は、基本的に Vol.1 と同様である。仏式弔事の流れの「補足編」として、納棺のタイミングや火葬と葬儀・告別式の順番に関する地域差が言及されている [長野こまち 2020：140]。

全体として、相続・葬儀・墓・仏壇を含む「終活」パートは68ページ、葬儀場・葬儀関連施設カタログは22ページ、弔事の基礎知識パートは59ページの分量がそれぞれ割かれている。終活パート50ページ、弔事の基礎知識パート62ページであった Vol.1 と比べると、終活の比重が大きくなっていることが分かる。なお、今号でも「覚えておきたい用語集」Vol.1～4と巻末の「特別付録 未来を託す エンディングノート」14ページがついている。

スタッフは計35名の記載がある。終活パートの「相続のこと」は、宮澤法律事務所（長野市）・小池管理会計税務事務所（上田市）・長野県司法書士会（長野市）の協力、「お葬儀のこと」は、株式会社アステック信州、「お墓・仏壇のこと」は、長野石材協同組合、弔事の基礎知識パートは、株式会社アステック信州の協力のもと執筆されている [長野こまち 2020：13、51、61、65、103、141]。

(3) 広告の傾向比較

次に、Vol.1 と Vol.3 に掲載されている協賛社の広告に注目してみたい。本文中で紹介・特集されている企業を除き、巻頭・巻末および裏表紙に掲載の広告の内容、件数、ページ数を一覧にしたのが以下の表 1 である。Vol.1 では、「葬儀社・葬祭ホール」の広告件数が 6 件、計 7.1 ページあったのに対し、Vol.3 では、2 件、計 3 ページに減っている。

それに対し、相続手続き・遺言関係の「弁護士・税理士事務所」の広告は、Vol.1 では 3 件、計 1 ページだったのが、Vol.3 では 5 件、計 4.25 ページに増加し、両者が逆転している点が注目される。この傾向は、前述した本文のページ数に関しても同様である。

表 1 巻頭・巻末に掲載の広告内容および件数、ページ数

(各項目 上段：2016 年 Vol.1 下段：2020 年 Vol.3)

内容	件数	ページ数					
		2p	1p	0.5p	0.25p	0.1p	合計
葬儀社・葬祭ホール	6	2	3			1	7.1
	2	1	1				3
納骨堂（寺院）	1		1				1
	0						0
礼服（百貨店）	1		1				1
	0						0
盆提灯（人形店）	1			1			0.5
	1			1			0.5
相続手続き・遺言（弁護士・税理士事務所）	3			1	2		1
	5		4		1		4.25
棺（建築士事務所）	1			1			0.5
	0						0
墓（石材店）	2		1	1			1.5
	1			1			0.5
ペット葬	1				1		0.25
	0						0
会席料理（料亭）	1				1		0.25
	2				2		0.5
不動産	0						0
	1		1				1
遺品整理・ゴミ片付け	0						0
	1				1		0.25

3. ポータルサイト「長野の葬儀 Web」

長野こまちは、ムックシリーズ『長野の葬儀』と連動したポータルサイト「長野の葬儀 Web 「いまどき」の長野県の相続・お墓・お葬式のことがよくわかる」を2016年より運営している。長野県内の葬儀に関する店舗・施設・企業の基本情報を、県内13エリアから検索することができ、「地域密着型」の「身近な施設」が24時間いつでも探すことができる。また、エリアと価格帯を設定し、「安心のセットプラン」を検索したり、企業へ資料請求することも可能である。『長野の葬儀』に掲載の会葬マナーや基礎知識、セミナーや見学会などのイベント情報も掲載されている。（ただし、2022年以降、更新がストップしているようである）



「長野の葬儀 Web」 トップページ

<https://www.naganosougi.com/> （2025年3月31日最終閲覧）

書籍だけでなく、それと連動した Web サイトを同時に開設するというのは、他の都道府県密着型の作法書にはなかった新たな試みであったと言える。

まとめと今後の課題

第4期の研究では、1990年代以降、全国的に刊行されてきた都道府県別の冠婚葬祭作法書のうち、近年も増版や創刊の見られる新潟県および長野県の事例に注目し、メディアとしての冠婚葬祭作法書の「作られ方」とその役割について探ることを目的としている。

本稿では、作法書の制作および編集を行う作り手側の立場に焦点をあて、誰が、どのように作法書を作っているのか検討を行った。第3期で扱った『新潟県の葬儀と法要』シリーズを手がける株式会社新潟日報メディアネット（株式会社新潟日報事業社と合併）出版部に取材したところ、同社では同じ編集者が執筆・制作を行うわけではなく、協賛社を募り、協賛社の協力のもと発刊までの進行管理を担う「監修に近い立場」であるとの回答を得た。地元企業の協賛を広く募集し、葬儀関連企業の協力を得る、そして最終的に書籍という形で刊行するという、新聞社のマスメディアとしての役割は大きい。

ただし、現在は新聞社として執筆・制作を行っているわけではないということで、同じく作法書の刊行数の多い長野県の事例を検討した。長野県において最も近年に作法書を発行している株式会社長野こまちのムックシリーズ『長野の葬儀』を対象に、その内容や構成を概観し、作り手側の視点にアプローチすることとした。

『長野の葬儀』は、2016年に新しく創刊され、2018年、2020年と全3号が刊行されている。本稿では、入手することのできたVol.1とVol.3をそれぞれ検討し、比較した。両号に共通する1つ目の特徴として、葬儀（弔事）のマナーよりも相続や葬儀・墓に関する「終活」に比重が置かれていることが指摘できる。親が「元気なうちに」「もめないために」「親子で決めておく」というのが主眼である。よって、終活をする本人だけではなく、その子どもも対象となっている。そしてその傾向は、Vol.3になると顕著となり、「終活」関連パートのページ数や協賛社による掲載広告の件数・ページ数からも明らかである。

2つ目の特徴として、葬儀（弔事）のマナーに関しては、喪主や遺族となったときの準備や心得と、訃報に接し弔問・会葬する際のマナーのそれぞれが詳細に解説されていることが挙げられる。つまり、現在は葬儀のホスト側・ゲスト側どちらの場合の知識も共有・継承が難しくなっていることを表していると言える。

3つ目の特徴は、長野県内の葬儀場・葬儀関連施設を紹介する特集ページやカタログ形式のページが充実していることである。前出の葬儀（弔事）のマナーに関して、地域性は、出棺やお斎、香典などのいくつかの項目において北信・東信など地域名が簡単に言及される程度であったが、県内の葬儀場・葬儀関連の企業を多数紹介するのは『長野の葬儀』の特徴である。

そして、4つ目、最も大きな特徴として、同シリーズと連動したポータルサイトを開設・運営していることが挙げられる。時代の変化にあわせて、ウェブメディアも導入している点

が注目される。

また、各パート・特集は、法律関係の事務所や葬儀社、石材店などそれぞれ専門の企業の協力により執筆・制作がなされていた。具体的な誌面作りの過程については、現在、長野こまちの編集担当者取材中のため、次年度の報告としてまとめることとしたい。

引用文献

大場あや 2024a 「「無縁社会」論の諸相と展望—孤独死と葬制をめぐって—」駒澤大学『文化』42、104[91]-77[118]頁。

大場あや 2024b 「都道府県別冠婚葬祭の作法書にみる地域性——3つの真宗地帯から」

『論文集（令和3年度）』一般財団法人冠婚葬祭文化振興財団 冠婚葬祭総合研究所 2023年度、31-59頁。

長野こまち 2016『長野の葬儀 Vol.1 40代からの「終活」きっかけガイド 元気なうちに親子で決めておく相続・葬儀いま事情』長野こまち。

長野こまち 2020『長野の葬儀 Vol.3 しあわせ「終活」ガイド』長野こまち。

山田慎也 2017「告別式の平準化と作法書」『国立歴史民俗博物館研究報告』205、363-386頁。